

田舎は、消えない

2024 Fri 2025 Fri
10.04 ~ 01.10
～地域づくりの最前線から～
書 香 の 森

北海道大学文学部1階エントランスホール
| 主催 | 北海道大学大学院文学研究院 | 監修 | 林琢也 (地域科学研究室)

| 特別企画 | トークセッション開催！
10月8日（火）の14時45分から
岐阜県郡上市和良町の地域づくりに尽力されている
大野弘勝さんと加藤真司さんをお招きし、お話を伺います！
ZOOMでご視聴を希望される方は右のQRコードより入室！



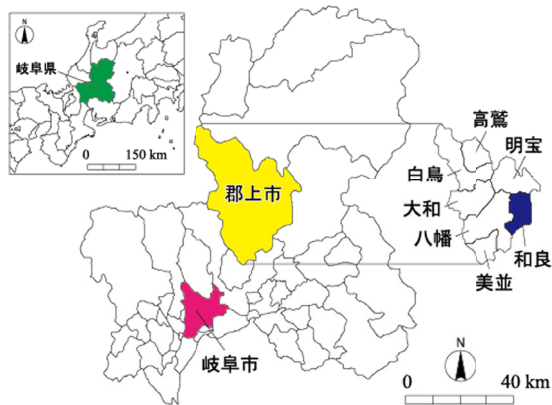
| 展示に関して | アンケートのお願い
「田舎は、消えない」企画展に関するアンケートを実施中！
右のQRコードよりご回答ください。



田舎は ～地域づくりの最前線から～ 消えない

— 展示概要 —

地域科学研究室・林 琢也ゼミナールは、フィールドワークを重視した研究・教育・地域連携活動の中で、岐阜県郡上市和良町の皆さんに、毎年お世話になってきました。今回の展示では、和良町でこれまでに行われてきた地域づくりの実践を紹介することで、農村の魅力や価値を感じるとともに、住民が移住者や大学の有志と連携・協働する中で、地域の存続・維持を目指していく方法やその意義を知って頂く機会になれば幸いです。



ぐじょう わら
郡上市和良町は、岐阜県の中央部に位置する。2004年に郡上郡7町村の合併によって誕生した。郡上おどりで著名な中心部（八幡町）とは峠道を通って車で約30分の距離にある。人口は合併後の15年間（2005～20年）でみても30%近く減少している。2020年の高齢化率は48.6%に達し、高齢者のみの世帯も増加している。

こうした中、地域の諸問題の解決を図るため、町内の有志を中心に2010年前後から積極的な地域づくり活動を展開してきたのが、和良おこし協議会である。

— 岐阜県郡上市和良町 —



— トークセッションについて —

今回の企画展の開催を記念し、実際に和良町で地域づくりの活動に尽力されている方をお招きし、トークセッションを開催します。地域づくりの現場（最前線）を知る貴重な機会でもありますので、ぜひともご参加ください。登壇されるのは、下記のお二人です。当日は、ゼミを主宰する教員（林）を司会に、3人で和良町の地域づくりについて、展示の内容と関連したトピックを取り上げながら、当時のエピソードや裏話を交えた座談会形式で実施します。



おおの ひろかつ
大野 弘勝

（一社）郡上・ふるさと定住機構 代表理事

1966年生まれ。岐阜県郡上市和良町（下洞）出身・在住。大学卒業後、和良村役場（当時）へ就職（Uターン）。帰郷後の地域とのかかわりを通して、改めて和良の魅力を再認識。以後、2023年度まで郡上市職員。退職後の

2024年7月より現職。町内の地域づくり団体「和良おこし協議会」の立ち上げ当時からの中心的存在。行政職員であると同時に、協議会のメンバー（住民有志）として、空き家対策や移住促進、和良鮎のブランド化などの活動を進めてきた。



かとう しんじ
加藤 真司

和良おこし協議会 事務局長

1967年生まれ。岐阜県郡上市和良町（下土京）出身・在住。名古屋市の特設学校を卒業後、店舗設計の仕事に従事。42歳で帰郷。2014年度より郡上市の地域おこし実践隊員となり、協議会の事務局長に就任（任期終了後も継続）。空き家を活用した移住促進事業は2024年度で10年目を迎える。その他にも集落の活性化支援、体験型観光、各種イベント・音楽ライブの開催等、和良の地域づくりを牽引してきた。和良の郷総合開発（株）取締役兼執行役員、和良観光協会会長等も務める。

主催 | 北海道大学大学院文学研究院

監修 | 林 琢也（地域科学研究室）

企画 | 林 琢也（地域科学研究室）
高橋 宏宜（地域科学研究室修士2年）
大橋 弘典（地域科学研究室4年）
久留原 和樹（地域科学研究室4年）

協力 | 書香の森WG

浅沼 敬子（芸術学研究室・WG座長）
今村 信隆（芸術学研究室）
佐々木 亨（博物館学研究室）
橋本 雄一（地域科学研究室）
森岡 和子（研究推進室）

印刷デザイン | 安 文森（博物館学研究室）

展示全般に関するお問い合わせ | no_imamura@let.hokudai.ac.jp（今村信隆）

STAFF